

# 山梨英和学院中長期経営計画

—持続可能性のための中長期計画—  
(2018年度～2023年度)

2018年3月23日

学校法人 山梨英和学院

## 【目次】

<b>I. 中長期経営計画の趣旨</b> .....	<b>1</b>
1. 山梨英和学院の理念	
2. 山梨英和学院の現下の課題	
3. 中長期経営計画の目的と構成	
4. 中長期経営計画の重点課題としての大学	
・山梨英和大学の5つの特色あるコアコンピタンス例	
・山梨英和大学の未来を拓く3つのキーワード例	
5. 中長期経営計画の重点課題としての中学校・高等学校	
6. 中長期経営計画の課題としてのこども園	
7. 中長期経営計画の課題としての山梨英和学院	
<b>II. 山梨英和学院の中長期経営計画</b> .....	<b>3</b>
1. 学院全体の建学理念の浸透	
2. 学院全体のガバナンス(統治)体制の確立	
3. 学院全体のコンプライアンス(法令遵守)体制の確立	
4. 学院全体の徹底した合理的経費削減策の実施	
5. 人材育成(教職員のスキルとモラルの向上)	
6. 経営計画委員会の設置と実効	
7. 広報活動の学院一元化と山梨英和ブランドの再構築	
8. 同窓会等ステークホルダーとの関係強化	
9. 創立130周年記念事業の展開	
10. 外部人材・情報・ネットワークの有効活用	
11. 奉仕の英和・社会貢献の英和像の定着	
12. 寄附金増加対策の実施	
13. 学院全体の教育環境の整備計画の調整	
14. 小学校新設の検討	
<b>III. 山梨英和大学の中長期経営計画</b> .....	<b>5</b>
1. 定員充足率の向上目標必達	
2. 英語教育カリキュラムの改革	
3. 奨学金制度の見直しと拡充	
4. グローバル化への取り組みを強化	
5. 新学部、新学科設置及びカリキュラムの抜本的改革	
6. 2021年度からの大学入試改革への対応	
7. 就職活動指導・支援体制の強化と拡充	
8. 教育の質の更なる向上	
9. 地元・東京圏にある他大学との連携の強化と海外の大学との提携ネットワークの拡充	
10. 在学生・卒業生の山梨英和大学の誇りと自信の涵養	
11. メイプルカレッジによる社会貢献活動の体制作りと実践	
【別紙】山梨英和大学におけるメイプルカレッジの中長期計画	
(1) 山梨英和大学における社会貢献と生涯学習の位置づけ	

- (2) 社会貢献活動研究会の発足と支援体制の確立
- (3) 従来のメイプルカレッジの文化・伝統の継承と改善
- (4) メイプルカレッジによる社会貢献活動研究会の発足
- (5) 指導・支援体制の確立
- (6) メイプルカレッジのマスコミ媒体への積極的なPR
- (7) 費用対効果の分析と合理化の徹底

—添付資料—

- (別表1) 山梨英和大学日本人入学生増加と定員充足率予測一覧
- (別表2) 山梨英和大学入学外国人留学生予測一覧

#### IV. 山梨英和中学校・高等学校の中長期経営計画 ..... 9

- 1. 英語学習指導を定着させ、総合的英語力の育成
- 2. キリスト教系大学への認知度および進路実績の向上
- 3. 入学募集と進学支援の改善
- 4. SSH（スーパーサイエンスハイスクール）等による授業改革
- 5. 中高の統一による校舎の高機能化

—添付資料—

Yamanashi Eiwa Way

- (1) 第Ⅰ期中長期計画(2011～2015年度)
- (2) 第Ⅱ期中長期計画(2016～2020年度)

#### V. 山梨英和こども園の中長期経営計画 ..... 13

- 1. 中長期経営計画の重点課題
- 2. 具体的な課題
  - (1) 保育・教育
  - (2) 幼保連携型認定こども園教育保育要領の研究と展開
  - (3) 職員間の情報の共有
  - (4) 研修の充実
  - (5) 利用定員と職員の体制
  - (6) 園舎・環境構成
  - (7) 子育て支援
  - (8) 事務・経理
  - (9) その他

# I. 中長期経営計画の趣旨

## 1. 山梨英和学院の理念

山梨英和学院は、キリスト教の信仰と精神に立脚する学校法人である。本学院はカナダ・メソジスト教会の女性宣教師と甲府市民の有志によって 1889 年に設立された女学校に始まる。現在は大学・大学院、中学校・高等学校、そして認定こども園を擁する学院であるが、一貫してキリスト教の精神を教育の基盤としており、それは本学院の掲げる校訓「敬神、愛人、自修」に集約されている。

本学院における教育はそのすべての段階において、教育の普遍的目標である自修すなわち自律的人間の確立を、聖書の説く神への信仰と、隣人への愛の土台の上に築くことを理想とする。

人生の道程において、人間は自立した個人であると同時に社会的存在として、家族に始まり最終的に国際社会へと広がる様々な社会的関係の中で生きなければならないが、その際、多様な人間関係の中で堅実で豊かな人生を送るためには、単に才能や技能すなわち「人材」としての力だけではなく、人間、世界、歴史等についての広い教養と深い洞察力を備えた「人格」としての力を必要とする。

神の前で深く自己を省みるとともに社会的原理を愛の共生に見出す本学院は、全教育活動を通して、人材教育のみならず教育の根幹である人格教育にキリスト教を基盤にして努める。

本学を構成する認定こども園、中学校・高等学校そして大学・大学院における個々の教育は、前述した当学院の理想と目標の下で展開されるものであり、また、山梨県唯一のキリスト教関係学校としての特色ある教育活動をもって、一人ひとりの幼児、生徒、学生が良き世界市民へと成長し、地域社会を始め国際社会の健全で豊かな形成と発展に貢献することを目指すものである。

## 2. 山梨英和学院の現下の課題

若年人口の急激な減少や教育に対する社会的要求の変化等、本学院が置かれた環境は極めて厳しく、その下で本学の特色ある充実した教育を維持するためには状況の変化に対する適切な対応が急務であり、とりわけ生徒、学生の確保は喫緊の課題である。

中学校・高等学校における 2016 年の定員削減、大学における 2018 年の定員削減は、学院の経営基盤を安定的に維持するための措置の一つであるが、それによって本学の理念の変更や教育の質の変化を結果してはならない。

今後、新たな定員に相応する教職員体制へ移行しつつ学校経営の財政的安定を図り、また個々の教職員能力の向上と資源の効率的な運用に一層努めることによって、引き続き充実した教育サービスの維持に努めなければならない。

## 3. 中長期経営計画の目的と構成

この中長期経営計画は、理事長、院長、学長、校長、園長、事務局長、常務理事、財務顧問で構成される経営計画委員会において、2018年3月に策定したものである。

前述のとおり山梨英和学院の喫緊の課題は、大学と中学校・高等学校が、学生数・生徒数の減少を食い止め、新たな定員において安定した学校経営と質の高い教育を確保することであり、この中長期経営計画は、その目的を達成するための今後5年間に対処すべき「経営改善計画」と位置づけて策定したものである。

本冊子は、次章以降に、学校法人山梨英和学院、山梨英和大学、山梨英和中学校・高等学校、山梨英和認定こども園(3園)の本部と3部門各々が、各部門の課題と対策を「山梨英和中長期経営計画」ー持続可能性のための中長期計画ーとして箇条書きにまとめたものである。

一方で、各部門毎の経営改善のための具体的な実施策と、5年間の時系列の実施計画については、「中期実施計画書」(別冊)を策定し、また、計画目標の達成に伴う財務状況改善のための「財務計画書」(別冊)も策定した。

## 4. 中長期経営計画の重点課題としての大学

山梨英和大学は、2017年度の1年次入学者数が定員250名に対して94名(37.6%)と減少しました。2018年度から定員を155名に改めると共に、この危機的状況を打開すべく、特に大学の改革・改善が重要かつ喫緊の重点課題であると認識し、ここに焦点を当てるものである。そこで質の高い教育の維持向上は当然のことながら、大学入学生の定員

充足率100%を3年以内に達成するために、次の強みを生かしたステイタスの高揚と一人ひとりの学生が良き世界市民へと成長し、地域社会に貢献すると共に国際社会の豊かな形成と発展に寄与することを目指すものである。

#### ・山梨英和大学の5つの特色あるコアコンピタンス例

- (1) 学院創立130周年、大学創立15周年、キリスト教精神で培った良き歴史と伝統と文化の校風
- (2) 「グローバル・スタディ領域」「サイコロジカル・サービス領域」「メディア・サイエンス領域」の展開
- (3) 地域創生に関する地域貢献活動の展開、地域イベントのコーディネーター・リーダーの輩出
- (4) 海外留学生の受け入れと海外への留学に注力
- (5) 国際交流、3つの奨学金制度(給付奨学金・特待生奨学金・村岡花子特別奨学金)

#### ・山梨英和大学の未来を拓く3つのキーワード例

- (1) “ことばのプロフェッショナル”～グローバル・スタディ領域「世界を見つめ、真の国際人を育てる」
- (2) “こころのプロフェッショナル”～サイコロジカル・サービス領域「心を理解し人を支える心理の専門家を育てる」
- (3) “アイデアのプロフェッショナル”～メディア・サイエンス領域でクリエイター、イノベーターを育てる

これらを踏まえて現状を顧みるに、山梨英和大学が必ずしもその特徴が十分に活かされず、却って少子化の影響や大学進学的首都圏集中から、その周辺地域に位置する当大学の優位性が見過ごされる状況にある。長年キリスト教に基づく建学の精神で培ってきた山梨英和学院ならではの伝統と文化とその英知、更には、斬新なアイデアと積極果敢な行動を以って、ここに記載される改革・改善の施策を着実に展開することで、持続可能性のある山梨英和学院となることが実現できると考える。

## 5. 中長期経営計画の重点課題としての中学校・高等学校

山梨英和中学校・高等学校は、近年生徒数の減少が進み、6学年合計の生徒数は504名(2017年5月1日現在)となっている。これはピークである1998年の生徒数1200名の42%であり、2013年からは横ばいまたは微増で何とか維持し今日に至っている。生徒数の確保は大学同様に喫緊の課題であり、そのためには何よりも教育の質を高めることが最も重要であることは言うまでもない。これまでも2010年に策定した山梨英和中学校・高等学校の長中期計画「Yamanashi Eiwa Way」(添付資料)に沿って様々な対策を実践してきた。例えば、伝統である英語教育の充実、SSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)指定による論理的思考力の強化、ユネスコスクール指定による英語教育・国際理解教育の進化、ICT教育環境の充実(生徒各人がタブレット端末使用)等があげられる。「Yamanashi Eiwa Way」の完成年度である2019年まで、その実現に向けて取り組みを継続していく。今回の中長期計画に掲げる、5項目の課題と対策は、現時点で最重要とする取組であり、この取組こそ最も生徒数の確保に繋がるものと考えられる。

## 6. 中長期経営計画の課題としてのこども園

3つの幼稚園は子ども・子育て支援新制度による認定こども園に移行して保護者の保育ニーズにも対応できるようになった。財政面でも私学助成から一般財源に基づく施設型給付へと切り替わり現時点では比較的安定した運営が図られている。しかしこうした現状も政策次第で大きく変わるので適切な情報の収集と経営判断が常に求められる。このような現状における認定こども園の中長期経営・運営策定にあたっては、主に以下の点を当面の課題として重視した。

認定こども園となって新たに生じた市町村との関係及び国が進める子育て支援政策に柔軟かつ的確に対応しうる山梨英和学院も含めての組織、体系体制づくりとその強化。建学の精神に基づく質の高い保育・教育を行うための職員の確保とその実践のための諸体制の構築。新園舎建設を視野に入れた計画の立案と駐車場等の用地確保。経年劣化している園舎へのその間の対応、特に保育に当たる部分・環境の弱さの克服。多様な保育ニーズ、地域のニーズにいかにより山梨英和らしく応えるか、以上である。

## 7. 中長期経営計画の課題としての山梨英和学院

学校法人としての中長期経営計画では、建学理念であるキリスト教精神に基づく教育と、校訓「敬神、愛人、自修」の学院全体への浸透を第一の課題とした上で、各部門の独立性とバランスを尊重しつつ、目下の対応すべき課題として、ガバナンス、コンプライアンス、人事制度、広報、外交、130周年記念事業等をあげ、その対応策を策定した。

## II.山梨英和学院の中長期経営計画

---

### 1.学院全体の建学理念の浸透

- (1)学院、大学、中学校・高等学校、こども園の各行事では礼拝形式を励行する。
- (2)学院全体の「年度聖句」、「使命」、「教育の基本方針」の設定と浸透を図る。
- (3)学院宗教委員会を設置し部門横断での宗教教育を活性化させる。
- (4)特別な日には、全学院に向けて理事者、宗教主任からメッセージを発信する。

### 2.学院全体のガバナンス(統治)体制の確立

- (1)各部門の自主的な経営は尊重するものの全体との調和したものであることを要する。
- (2)理事会・評議会・常務理事会の機能と役割分担、並びに、権限と責任を明確にする。
- (3)監事機能の強化を図り、学院全体の運営について客観的な意見の具申を求める。

### 3.学院全体のコンプライアンス(法令遵守)体制の確立

- (1)法令、学則・校則の順守について、意識と体制を強化し維持する。
- (2)あらゆる格差・差別・ハラスメント・いじめの防止について、意識と体制を強化し維持する。

### 4.学院全体の徹底した合理的経費削減策の実施

- (1)経費のムリ・ムダ・ムラを排除し、部門ごとの重複経費を一元化し節約する。
- (2)内部管理体制の強化と監査法人との連携を強化する。

### 5.人材育成(教職員のスキルとモラルの向上)

- (1)自己研鑽の奨励、SDの活発化、外部研修派遣等人材育成に注力する。
- (2)新人事制度(給与体系含)・人事政策の導入を検討する。

### 6.経営計画委員会の設置と実効

- (1)中長期経営計画のPlan-Do-Check-Actの執行・管理・監督を行う。
- (2)当該中長期経営計画の策定と実効に責任のある対応を図る。

### 7.広報活動の学院一元化と山梨英和ブランドの再構築

- (1)学院「広報委員会」の活性化により広報活動の有効化を促進する。
- (2)広報における部門間のコミュニケーションを密にし、統一化・一元化できるものは集約する。
- (3)アピール度の高いブランドを再構築しブランド発信を行う。

### 8.同窓会等ステークホルダーとの関係強化

- (1)学院全体の更なる発展のため同窓会等ステークホルダーと人的ネットワークを強固にする。
- (2)コミュニケーションを良くして、各種イベントの協調・協力を努める。

## 9.創立130周年記念事業の展開

- (1) 創立130周年を戦略的な広報、学院のアピールとして展開する。
- (2) 記念事業を通じて学院の一体感を醸成する。
- (3) 記念募金を実施する。

## 10.外部人材・情報・ネットワークの有効活用

顧問制度による外部人材の知識・経験・ノウハウを最大限有効に活用する。

## 11.奉仕の英和・社会貢献の英和像の定着

教職員も含めた奉仕活動、社会貢献活動への積極的な参加を奨励する。

## 12.寄附金増加対策の実施

- (1) 維持協力会、同窓会、地元企業等の協力を仰ぐ。
- (2) 遺言信託による遺産贈与型寄附を検討する。
- (3) HP からの寄附申込システムの導入を検討する。

## 13.教育環境の整備計画の調整

学院全体の視点から所有不動産の活用を検討する。

## 14.小学校新設の検討

目的、需要、経費、採算、その他諸条件、将来展望等について調査、分析、検討を行う。

### Ⅲ.山梨英和大学の中長期経営計画

---

#### 1.定員充足率の向上目標必達

- (1) 毎年度20名以上の国内入学生増を目標として、3年後に定員155名の必達を図る。
- (2) そのために当該5か年中長期経営計画のPDCAによる完全実施を促す。
- (3) SWOT分析による強み・弱み・発展機会・脅威を分析し選択と集中を行う。

#### 2.英語教育カリキュラムの改革

- (1) 学生全員対象に外部の英語力測定テストを導入し、英語への学習意欲を促進する。
- (2) 全てが英語で運営される「英和特別英語コース」を設置し、選抜された精鋭の学生を育成する。
- (3) 英語力を競うコンテストを実施し、学長杯・賞金の授与、海外留学の権利の付与を行う。

#### 3.奨学金制度の見直しと拡充

- (1) 定員充足率アップのために奨学金制度の拡充、効果的な運用を図る。
- (2) 特に社会問題している貧困対策の一助として、建学の理念に合致する花子奨学金の充実・拡充を行い、インセンティブを図る。
- (3) 文科省等の奨学金補助制度等を有効に活用する。

#### 4.グローバル化への取り組みを強化

- (1) 海外からの留学生の全入学生に対する比率を3年後に30%とする。
- (2) 海外からの留学生に対する日本語学習を強化するため日本語教員の増強を図る。
- (3) 海外からの留学生寮の建設・学外の篤志家による地域ホームステイの促進を図る。
- (4) 海外への留学生を毎年度約150名、5年間で全員にグローバル化のための体験留学を図る。
- (5) 2017年度に新設された国際交流室を充実し、専任職員を配置し、予算も強化する。

#### 5.新学部、新学科設置及びカリキュラムの抜本的改革

- (1) 新しい時代と時勢のニーズに沿い山梨英和大学らしい新学部・新学科を検討する。
- (2) 同様の趣旨でカリキュラムの抜本的改革を進める。

#### 6.2021年度からの新しい大学入試改革への対応

- (1) 入学前教育の再構築を図る。
- (2) アセンブリーの強化を図る。

#### 7.就職活動指導・支援体制の強化と拡充

- (1) 就職担当部署・担当教員を配置し、企業訪問・企業説明会等を実施する。
- (2) 学生個人の特性に合った就職先の相談と就職先確保を展開する。
- (3) 地元企業との連携を密にして、インターンシップ制を積極的に活用する。
- (4) 甲府市補助事業「こうふフューチャーサーチ普及促進事業」、文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」との連携により、地方創生、地元企業への就職に取り組む。



## 8.教育の更なる向上

- (1)各学科・科目のレベルアップと適材・適所の教員を配置する。
- (2)ニーズに応じて新しい学部・学科の開設、カリキュラムの改革を行う。
- (3)冠講座・冠講演会などを新設する。

## 9.地元及び東京圏大学との連携の強化と海外の大学との提携ネットワークの拡充

- (1)「大学コンソーシアムやまなし」の12大学・短大の相互連携の仕組みを有効に活用する。
- (2)2019年の甲府開府500年、学院創立130周年に合わせ、「地域社会連携センター」(仮称)やキリスト教文化関係の研究所又はセンターを設置する。
- (3)東京圏にある大学(姉妹校である東洋英和女学院大学との連携強化)及び海外の大学との連携による多様な交流・教育研究の相互補完に資する。

## 10.在学生・卒業生の山梨英和大学の誇りと自信の涵養

- (1) 伝統と文化と特色のある山梨英和大学で学ぶことに誇りと自信を植え付ける。
- (2) 自分の置かれた組織体・コミュニティで、少しでも役に立つことの尊さを実感させる。

## 11.メイプルカレッジによる社会貢献活動の体制作りと実践(別紙1)

- (1)担当教員を任命し地域社会貢献プラットフォーム的機能を発揮する。
- (2)学部学生とメイプルカレッジとの授業の互換性を持たせ参加者への単位を付与する。

## 【別紙1】メープルカレッジによる社会貢献活動の体制作りと実践

### 1.山梨英和大学における社会貢献と生涯学習の位置づけ

- (1)山梨英和大学の社会的責任の一環として、メープルカレッジを一般市民の教養教育の「学びの場」、社会貢献の「体系的実践の場」と位置付ける。
- (2)自由な教養のある市民と地域活動のコーディネーターやリーダーの育成に資する。
- (3)立教セカンドステージ大学と連携し地域に根ざした社会貢献活動を展開する。  
\*立教セカンドステージ大学とその社会貢献活動サポートセンターを参考(以下同じ)

### 2.社会貢献活動研究会の発足と支援体制の確立

- (1)学部学生と受講生の協働による地域社会貢献活動研究会を設立する。(5件を目標)
- (2)地域貢献活動に対する補助金(講師料・各種研究支援費等)を交付する。
- (3)社会貢献活動参加者への単位制の導入とインセンティブの付与する。(下記3)
- (4)学部学生(留学生を含む)の社会貢献活動参加者に単位の互換性を認める。

### 3.従来のメープルカレッジの文化・伝統の継承と改善

- (1)講座のジャンル別分類・集約とニーズに沿った講座の質的向上を図る。
- (2)単位制の導入と修了証の授与(学校教育法105条「履修証明書」\*)を交付する。  
\*体系的教育システムの下での現行年120時間((2019年度60時間以上)以上の履修が必要。

### 4.具体的社会貢献活動研究会の発足 \*「山梨学」をベースとした研究活動

- (1)「山梨県の地域活性化プロジェクト」～山梨県下の地域を特定し、商店街の活性化・まち起こし等の活性化に資する実践的活動を行う。
- (2)「山梨県の観光開発・自然環境保全プロジェクト」～日本でも有数の果物とワイン、アルプスと自然景観・温泉等の東京圏の郊外としての観光資源と自然環境保全の実践的活動を行う。
- (3)「山梨県の日本型 CCRC の拠点プロジェクト」～東京の至近距離に位置する高齢者の居住・学習・健康のシニア共同体)の二地域居住・移住等の開発研究を行う。

### 5.指導・支援体制の確立

- (1)メープルカレッジ学長・事務室の体制整備を図る。
- (2)指導教員による受講生・研究生の自主的・自発的活動促進と指導を行う。
- (3)研究会発表会の開催と表彰制度の採用、情報ニュースの学内外発信を行う。

### 6.メープルカレッジのマスコミ媒体への積極的なPR

- (1)地域文化の発信基地の役割を果たす(ニューズレターの発信等)
- (2)経費の掛からない活動紹介、イベントの開催等を新聞・雑誌に投稿する。
- (3)新生メープルカレッジの投げ込み等プレス発表を行う。

## 7.費用対効果の分析と合理化を徹底

- (1)1科目当たりの人件費・物件費に照らして、メイプルカレッジの独立採算的な運営を行う。
- (2)IT 利用で徹底した事務の合理化を図り経費節減に努める。
- (3)パンフレット等を極力 WEBSITE に切り替え合理化を図る。

(別表1)山梨英和大学日本人入学生増加と定員充足率予測一覧

年 度	2017	2018	2019	2020
日本人入学	94	115	135	155
増加数	－	+21	+20	+20
定員数	250	155	155	155
(充足率)	(38%)	(74%)	(87%)	(100%)
海外留学生	32	30	40	50
日本・海外	126	145	175	205

(注1)2017年度は実績

(注2)2018年度入学定員を155名に変更

(注3)2020年度は中長期経営計画3年目ターゲットの予測数値(以下同じ)

(別表2)山梨英和大学入学外国人留学生入学者予測一覧

年 度	2017	2018	2019	2020
入学者数	32	30	50	70
増加数	－	－2	+20	+20
日本・海外	126	145	185	225
(留学比率)	(25%)	(21%)	(26%)	(30%)

## IV.山梨英和中学校・高等学校の中長期経営計画

---

### 1.英語学習指導を定着させ、総合的英語力の育成

- (1) 生徒向けの英語研修を中3に拡大(2018年度見込)するなど、英語の「聞く・読む・話す・書く」の4技能を高める教育プログラムを充実する。
- (2) 英語外部検定利用入試に備え、2019年1月にEnglishWeekを導入し、英検を中高生全員受験するなど検定取得支援を充実する。2020年度には高3の準2級取得率80%、中3の3級取得率95%を目指す。
- (3) グローバル化に対応するため、次期学習指導要領に小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実が示されたことを受け、「英語の英和」として地域の拠点となるべく、「Logic&Expression」の導入を始め、「キープ協会と共同の春の英語キャンプ」や「本校校舎を活用した国際交流プログラム」の開発を行う。

### 2.キリスト教系大学への認知度および進路実績の向上

- (1) キリスト教の信仰と精神に立脚し、創立130周年を迎える本校の認知度向上を図るため、信徒大会でのプレゼンやキリスト教学校合同フェアへの参加などの広報活動を強化する。
- (2) 人気の高いキリスト教系大学(Starlit)を重点校と位置づけ、進路目標を設定する。進路実績を向上し、目標を達成するために合同説明会や模擬授業、大学生との交流事業など進学支援を充実する。

### 3.入学募集と進学支援の改善

- (1) 少子化が進展するなど厳しい状況下ではあるが、本校の伝統や中高6年間一貫教育、女子・英語教育、SSH による理数教育といった本校の特色をより効果的にアピールするためHPのリニューアルや小学校への出前授業等を実施する。
- (2) 2020年度の大学入試改革をふまえ、進路指導體制の強化をはかる。

### 4.SSH(スーパーサイエンスハイスクール)等による授業改革

- (1) SSH の第2期において科学的基礎力、論理的思考力、主体性を育成するため、MINT 教育、6カ年一貫探究型学習、SDGs を教材とした地域連携・国際連携型学習プログラムを研究開発し、学び続ける力、協働力、問題発見・解決能力を持つ女性を育てる。
- (2) 本校の特色の一つである ICT 教育(生徒 1 人に 1 台の iPad を導入するなど)をさらに教育面で活用する体制を強化する。

### 5.中高の統一による校舎の高機能化

- (1) 2020年度を目標に中高校舎を統一することで経費等の削減をはかるとともに、人員計画を見直すなど機能的な組織運営を行う。
- (2) ラーニングコモンズ導入やエコスクール化により学習環境を改善するとともに、防犯機能を高め、セキュリティを強化する。

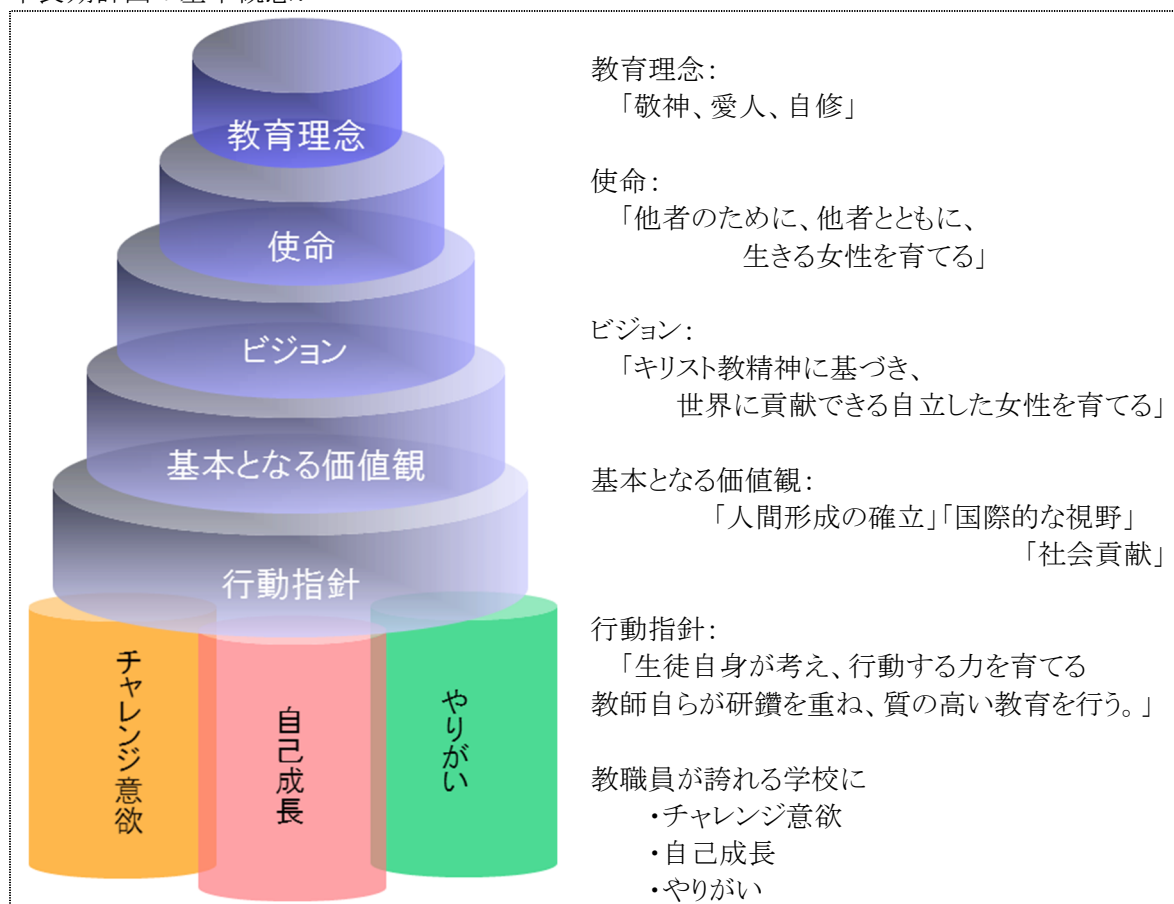
## Yamanashi Eiwa Way

(2017年改定版)

### 第I期中長期計画(2011～2015年度)

山梨英和中学校・高等学校では2010年度に中期計画として「Yamanashi Eiwa Way」を策定した。これは建学の精神を基本として、新しい要素を加え、今後進むべき方向性を示したものであり、これまでの英和教育の蓄積をさらに発展させていくためのベースになるものである。

中長期計画の基本概念:



“理念” : 建学から今に受け継ぐもの  
“使命” : 私たちは何のために存在しているのか  
“ビジョン” : 私たちはどこに行こうとしているのか  
“基本となる価値” : 私たちは何を大切に考えるのか  
“行動指針” : 私たちはどのように行動するのか

#### 1) 理念

敬神、愛人、自修

すべてのものをお創りになり、一人一人に命と使命をお与えになる神様を信じる時、私達は、愛すること、愛されることの尊さに気付く。その愛に応え、愛に生きる者となるために、私達は自分自身を磨き、深め、成長させる事を志す。

#### 2) 使命

山梨英和中学・高等学校は、創立120年の伝統を重んじながら、自らの意思によって奉仕する生徒を社会に送り出すことができるように、教育を実践していく。

本校の使命

・「他者のために、他者とともに」生きる女性を育てる

本校の目標

・国際的な視野に立ち、社会に貢献できる女性を育てる

□私たちの行動指針

・教師が自ら研鑽を重ね、質の高い教育を行う

・生徒自身が考え、行動する力を育てる

□山梨英和バリュー

・自立した女性

・他者への奉仕

・国際的な視野

### 3) ビジョン

“感動”に満ちた英和教育

世界に貢献できる自立した女性を育てる

□10年後の姿

(在校生)

活気溢れる環境の中で、自分の夢の実現に向かって日々努力している

(卒業生)

自分の賜物をいかし、社会に貢献する女性になっている

(教職員)

高い教育力を持ち、英和教育を推進している

(学校)

山梨英和の教育が広く世間に認知され、地域社会に受け入れられている

□目指す姿

I. 国際社会で通用する人材を育てる

II. 教師・保護者・生徒がゆるぎない信頼関係を築いている

III. 活気溢れる学校になっている

IV. 生徒が希望する夢の実現へのステップアップが図れている

### 4) 基本方針

生徒像

①礼拝を大切にして、謙虚な心で生活の規律を確立する

②学力をつけ、考える力を養う

③校内での活動に積極的に参加し、責任を持つ

教師像

①授業力・教育力の向上

②組織の活性化

③仕事の効率化

### 5) 主要戦略

①生徒会活動の活性化

(生徒の自主・自律・自治能力を育てる)

クラブ・委員会の活動率を上げて、努力を結果につなげる

地域でのボランティア活動

クラブ・委員会の各奉仕活動

様々なコンクールへの応募

②進路実績を上げる

各種検定試験合格率

外部模試の平均得点の目標設定

類型別クラス毎の進路実績の特化

③仕事の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する

## 第Ⅱ期中長期計画(2016～2020年度)

2010年度に中期計画として策定した「Yamanashi Eiwa Way」を土台として、Ⅱ期(2016～2020年度)を積み上げる。Ⅰ期ではユネスコスクールとして、文部科学省指定のスーパーサイエンスハイスクールとして、教育改革に着手した。Ⅱ期では2020年の大学入試改革を視野に入れて「未来学力」を育むための取り組みを進める。1 学年中学 70 名、高校 140 名の枠組みの中で、50 年後を視野に入れたグランドデザインを策定し、建学の精神に立った独自の教育を実践する。

### □教育関係

#### 1) 重点事業

山梨英和の建学の精神に揺るぎなく立ち、キリスト教信仰に基づく本校の校訓である「敬神・愛人・自修」が、常に本校の中心にあることを全教職員が再確認する。そして、この建学の精神を軸として、全ての教育を実践する。まずは、教職員が思いを一つにして、日々の礼拝を大切にし、神様の言葉に謙虚に耳を傾ける生活を心がけ、その姿を生徒に示す。また、現状に満足することなく、教育に携わるプロとして常に向上心を持って研鑽に励んでいく。

次に、生徒一人一人が神様から与えられた賜物を活かすために、近年様々な角度から新しい取り組みを試みているが、その定着および更なる前進に力を注ぐ。情報が錯綜する現代において、次世代を担う生徒たちには、自ら考え、真実を見極め、それを発信する力が求められている。神様から頂いた賜物を感謝して、それぞれ与えられた場所で活かすことができるよう、人間教育に重きを置き、また逆境にも耐えうる生徒を育成する。そして、キリスト教信仰に基づき「国際的な視野に立ち、社会に貢献できる自立した女性を育てる」ために、一丸となって教育の業に励んでいく。

##### ① 「礼拝を大切にする」

本校の根幹にあるキリスト教信仰に基づく教育を実践する。そのためには、礼拝を大切にし、チャペルでは私語を慎み謙虚に神の御言葉に耳を傾け、心を静かにして一日を始める。また、教会の礼拝にも出席するよう努める。「敬神」

##### ② 「相手を尊重する」

学内においては、私学の組織人の一人として、互いに尊重し全員で支えあう組織を構築する。保護者や生徒に対しても誠実に対応し、軽率な言動をひかえるよう十分注意をはらい、地域の方々とも協力し合うよう務める。生徒がボランティア活動に積極的ににかかわる姿勢を育て、国内外の研修の機会を提供し、国境を越えた繋がりや交流を深める。また、昨年度から新中1生、新高1生にはカウンセラーによる全員面接を実施したが、今後も生徒・保護者に開かれた支援を目指す。「愛人」

##### ③ 「高い志をもって研鑽を積む」

私学を取り巻く状況は年々厳しさを増しており、常に「+α」を意識して教育を行う。質の高い教育を行うためには、教師の資質を向上させることが必須である。常に世界の動きを敏感に察知し、自己研鑽に励んでいく。SSHⅠ期最終年を迎え課題が少しずつ見えてきた。この5年間を総括しⅡ期目を目指し準備を進める。SSHの取り組みを軸として、「未来学力」を育むための各教科の課題を見つけ、6年間で身につける力を明確に示し、全校で研究開発・教育改革を実践する。生徒たちの潜在能力を引き出し、夢の実現を全力でサポートする。「自修」

### □施設関係

#### 1) 重点事業

現在の山梨英和中学校・高等学校の校舎は中学校及び高等学校の校舎がそれぞれ分かれている。また、募集定員を変更したことから、在籍者数に対して校舎の規模が大きく、十分に活用されていない教室も散見されるようになった。このような状況下で、教職員を有効的に活かすことや施設の有効活用、設備の効率化を図るとともに、中高一貫校としての効果を最大限に発揮するよう、創立130周年を迎える2019年までに、校舎の統一を図ったグランドデザインを策定する。

## V.山梨英和こども園の中長期経営計画

---

### 1. 中長期経営計画の重点課題

- (1)キリスト教信仰の精神に基く保育・教育・子育て支援の推進
- (2)幼保連携型認定こども園として期待されている乳幼児期から就学までの切れ目のない一貫した保育・教育の展開
- (3)地域の子育て支援等のニーズへの積極的な対応
- (4)所期の目的を果たすための職員の確保、保育・教育の質の向上、カリキュラム・プログラムの精選と展開、施設の整備・構築、諸環境の整備
- (5)安心して子どもを預けられる園としての信頼と実績を得ることを通しての園児の確保と経営の安定化

### 2. 具体的な課題

- (1)保育・教育
  - ①建学の精神(キリスト教保育の実践)の共有
  - ②礼拝の重視、キリスト教会との関係の構築
  - ③キリスト教の基本に関わる事項の学び
  - ④統合保育の推進
- (2)幼保連携型認定こども園教育保育要領の研究と展開
- (3)職員間の情報の共有
- (4)研修の充実
  - ①コミュニケーション能力・カウンセリングマインドの涵養
  - ②個性豊かな子どもたちとの関わり方
  - ③「障がい」を持つ子どもたちへのケア
  - ④「専門リーダー」「職務分野別リーダー」に求められる研修
  - ⑤諸課題に対応できる力を持った組織となるための研修
- (5)利用定員と職員の体制
  - ①少子化に向かう中での適切な利用定員の設定
  - ②建学の精神を共有する専任職員、臨時職員の確保
  - ③過重労働とならないためのワークシェアの推進
  - ④処遇の改善
  - ⑤施設型給付「処遇改善」制度を利用しての組織体制・体系の構築
- (6)園舎・環境構成
  - ①園舎の改修・修繕
  - ②新園舎の建設
  - ③土地の取得
- (7)子育て支援
  - ①子育て支援拠点事業の一層の充実
  - ②子育て支援活動の一層の展開
    - ・保護者のニーズへの対応と体制の構築(支援センター、公開講座、一時預かり、他)
    - ・地域のニーズへの対応の検討(高齢者との交流等の多世代交流、他)
    - ・園としての子育て支援活動と体制の構築
- (8)事務・経理
  - ①新園舎建築・土地取得のための積立
  - ②適切な運営による収支の均衡



(9)その他

- ①企業主導型保育事業、小規模保育事業の検討
- ②放課後児童預かり事業の検討
- ④ 山梨英和中高・山梨英和大学との連携

以上